

まちづくり円卓会議報告書

(平成25年度)

西東京市市民協働推進センター

目 次

1. 要約	1
2. 平成25年度まちづくり円卓会議	
2.1 開催目的	2
2.2 開催状況	2
2.3 まちづくり円卓会議の様様	5
2.4 議論の記録	6
2.5 参観者のアンケート結果	11
2.6 まちづくり円卓会議の課題	11
参考資料	12

1. 要約

平成 24 年度の新規事業となった「まちづくり円卓会議」は、「居場所づくり」をテーマにまちづくり円卓会議を 2 回実施した。その会議メンバーの提案を受け、平成 25 年度のテーマは、これまでの協議をふまえた「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」にすることとし、まちづくり円卓会議を 3 回開催した。

会議は、テーマに関心のある 8 人（岩崎 智之（おとなりさん。小金井公園）、小松 真弓（NPO 法人子どもアミーゴ西東京）、紺野 美子（NPO 法人移動サポートひらけごま）、鈴木 みどり（かたらいの場“チャオ！”）、田辺 広子（NPO 法人ハンディキャップサポートウーノの会）、利光 有紀（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会 ほっとネットステーション）、名倉 直子（社会福祉法人悠遊 泉町地域包括支援センター）、星野 美津子（田無公民館 あめんぼ青年教室）で行った。また、まちづくり円卓会議の準備会合として、事前に「スタッフ情報交換会」を行い、情報交換や円卓会議での話し合いの枠組みについて検討しモチベーションの維持向上を図った。

第 1 回目は、7 月 29 日（金）13 時半～15 時半、イングビル 3 階会議室にて非公開で開催した。

「まず取り組みそうなことについて」遠慮なく率直に意見を出しあい、できそうな火種やチャンスがあるのか、関係者にもたらずメリットは何か、取り組みに対してネックとなることについて話を進めた。様々な発想で多くの意見は出されたが、話し合ったことを具体化する活動について絞り切れなかった。

第 2 回目は、11 月 21 日（木）14 時～16 時半、防災センター 会議室にて公開で開催した。

議論を深めていくためにも当事者の声を聴くことが重要だという意見から、障がいのある人たちにも参加を呼びかけた。当日の会場には多様な人たちが集い、会議の途中で参観者にも「来ている人が主役になれること」や、「行きたくても行けない場所にはどうやったらいけるのか」等の問いが投げかけられた。参観していた当事者自身の意見を全員で共有する機会となった。話し合いの最後に、会議メンバーが今後やりたいことをそれぞれ出しあって終わった。

第 3 回目は、3 月 10 日（月）13 時半～16 時半。障害者総合支援センター「フレンドリー」にて公開で開催した。これまでの話し合いから、「一過性でなく継続してできること、当事者にとってやりがいになること」を実現する話し合いを行った。会議の途中から、農家と連携した取り組みを実施している参観者も会議メンバーに加わることで具体的な話し合いに発展した。

今後の実現にむけては、メンバーを中心とした会を構成し、「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」について市内の農地での農作業を一緒にやっていくことと、そのために定期的に今後も継続した話し合いが出来る会を立ち上げるということにまとまった。

これまで一緒に話し合う機会のなかった活動分野の違うメンバーが、情報交換したり、話し合うことによって個別に新たな事業協力もうまれた。

今後も立場の違いを超えて繋がることから新たな展開が期待できる。

まちづくり円卓会議での繋がりでメンバーが定期的に情報交換できる会もでき、日常的に地域での助け合える関係性が築けたことも大きいと考える。

2. 平成 25 年度まちづくり円卓会議

2.1 開催目的

市民協働推進センター「ゆめこらぼ」では、地域連携促進事業として、多様な立場の関係者が集い、西東京市の地域課題解決について、どのように協働し解決につなげるかを協議する場をもつこととし、『まちづくり円卓会議』を昨年度に新規事業として追加した。

昨年度は、平成 25 年 2 月に講師をお招きし「地域円卓会議」について学ぶとともに、講師のファシリテートにより傍聴者が参加する形で、「居場所」をテーマとして模擬的に第 1 回のまちづくり円卓会議を開催した。また、同年 3 月にはそのまちづくり円卓会議の会議メンバーにより、前回の内容を振り返るとともに「居場所づくり」をテーマとする今後のまちづくり円卓会議の進め方に関して第 2 回まちづくり円卓会議を行った。

その結果、今年度は会議メンバーから出された提案をもとに『まちづくり円卓会議』を引き続き実施することとした。

2.2 開催状況

(1) まちづくり円卓会議の準備会合の設置

まちづくり円卓会議の関係者の協力や情報共有、モチベーションの維持を図るために、まちづくり円卓会議の準備会合として「スタッフ情報交換会」を充てることとした。

(2) スタッフ情報交換会 第 1 回～5 回 概要

第 1 回	日時・場所：平成 25 年 4 月 15 日 17:30～18:30・ゆめこらぼサロンコーナー 参加者：3 名(田無公民館職員/まちづくり円卓会議メンバー、ゆめこらぼセンター長・職員) 概要：今後の進め方として、昨年度の円卓会議メンバーを中心に「障がいのある人もない人も共に参加し楽しめる場づくり」をテーマに情報交換を続け、円卓会議に発展させて課題解決へと繋げていくこととした。
第 2 回	日時・場所：平成 25 年 6 月 6 日 16:30～18:00・ゆめこらぼサロンコーナー 参加者：7 名(田無公民館職員他まちづくり円卓会議メンバー、ゆめこらぼセンター長・職員) 概要：まちづくり円卓会議の準備会合として、スタッフ情報交換会を開催し、まちづくり円卓会議の枠組みを話し合った。
第 3 回	日時・場所：平成 25 年 10 月 1 日 13:00～15:00・都内 参加者：4 名(認定 NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ常務理事、ゆめこらぼセンター長・職員) 概要：まちづくり円卓会議「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」に向けてファシリテーター横田能洋氏と情報交換および確認作業を行った。

第4回	<p>日時・場所：平成25年11月6日17:00～18:30・ゆめこらぼサロンコーナー</p> <p>参加者：7名(田無公民館職員他まちづくり円卓会議メンバー、ゆめこらぼセンター長・職員)</p> <p>概要：ファシリテーターとの打ち合わせ結果の報告と第2回まちづくり円卓会議の進め方やゴール、当事者の参加について意見交換した。</p>
第5回	<p>日時・場所：平成26年2月24日17:00～18:30・ゆめこらぼサロンコーナー</p> <p>参加者：12名(田無公民館職員他まちづくり円卓会議メンバー、ゆめこらぼセンター長・職員)</p> <p>概要：今年度最後となる第3回まちづくり円卓会議の議論の枠組みについて意見交換を行った。</p>

(3) まちづくり円卓会議 第1回～3回 概要

	開催日時・開催場所	参加者
第1回	<p>開催日時 平成25年7月29日13:30～15:30</p> <p>開催場所 イングビル3階 会議室</p> <p>タイムスケジュール 13:30～ 今年度のまちづくり円卓会議の進め方 14:10～ 自己紹介 14:30～ 意見交換 「まず取り組めそうなこと」 「できそうな火種、チャンスはありますか」 「どのようなメリットを関係者にもたらずか」 「その取組を検討する際にネックになりそうなことは何か」 ※「どの取組みについて話し合いを深めていくか」 15:20～ ふりかえり 15:30 今後の予定(確認)</p>	<p>会議メンバー：7名 岩崎 智之(おとなりさん。小金井公園) 小松 真弓(NPO法人子どもアミーゴ西東京) 紺野 美子(NPO法人移動サポートひらけごま) 鈴木 みどり(かたらいの場“チャオ!”) 田辺 広子(NPO法人ハンディキャップサポートウーノの会) 利光 有紀(社会福祉法人西東京市社会福祉協議会 ほととネットステーション) 星野 美津子(田無公民館 あめんぼ青年教室)</p> <p>ファシリテーター： 板垣 洋子(西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ)</p>
	<p>概要 昨年度に開始した「まちづくり円卓会議～西東京市のまちづくりを考える」は、今年度「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」をテーマに開催し、「まず取り組めそうなこと」「できそうな火種、チャンス」について意見交換、今後の活動について多くのアイデアが出された。</p>	

<p>第 2 回</p>	<p>開催日時 平成 25 年 11 月 21 日 13:30～16:30</p> <p>開催場所 防災センター6 階 講座室</p> <p>タイムスケジュール 13:30～ 開会挨拶 13:35～ 第 1 部 経緯説明 13:55～ 休憩 14:00～ 第 2 部 15:30～ ふりかえり 16:25～ 閉会挨拶・アンケート記入</p>	<p>ファシリテーター： 横田能洋氏(認定 NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ)</p> <p>会議メンバー：7 名 岩崎 智之(おとなりさん。小金井公園) 小松 真弓(NPO 法人子どもアミーゴ西東京) 紺野 美子(NPO 法人移動サポートひらけごま) 田辺 広子(NPO 法人ハンディキャップサポートウーノの会) 利光 有紀(社会福祉法人西東京市社会福祉協議会 ほっとネットステーション) 名倉 直子(社会福祉法人悠遊 泉町地域包括支援センター) 星野 美津子(田無公民館 あめんぼ青年教室)</p> <p>アシスタント：1 名</p> <p>参観者：25 名</p>
<p>概要 第 1 回の意見交換をもとに、居場所についての悩みから「人が行ったり来たりの関係づくり」「施設を開くには」「行きたくても行けない場所にどうすれば行けるか」についてのアイデアを出し合うとともに参観者の中から当事者の意見を伺った。</p>		
<p>第 3 回</p>	<p>開催日時 平成 26 年 3 月 10 日 13:30～16:30</p> <p>開催場所 障害者総合支援センター「フレンドリー」3 階多目的室</p> <p>タイムスケジュール 13:30～ 経緯の説明 14:00～ まちづくり円卓会議 14:50～ 休憩 15:05～ まちづくり円卓会議 15:55～ 振り返り 16:20～ 閉会挨拶・アンケート記入</p>	<p>ファシリテーター： 横田能洋氏(認定 NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ)</p> <p>会議メンバー：6 名 岩崎 智之(おとなりさん。小金井公園) 小松 真弓(NPO 法人子どもアミーゴ西東京) 紺野 美子(NPO 法人移動サポートひらけごま) 鈴木 みどり(かたらいの場 “チャオ!”) 利光 有紀(社会福祉法人西東京市社会福祉協議会 ほっとネットステーション) 星野 美津子(田無公民館 あめんぼ青年教室)</p> <p>アシスタント：1 名</p> <p>参観者：16 名</p>
<p>概要 前回までのアイデアの中から、継続的にできること、当事者にとっても有意義であることを理由に「農地での共同農作業」の実現に向けて話合った結果、今後会議メンバーを中心に会を構成して実施することになった。</p>		

(4) 公開まちづくり円卓会議 ファシリテーター

横田 能洋氏

認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ常務理事兼事務局長

1996年に茨城NPO研究会を発足させ、1998年11月に茨城NPOセンター・コモンズを設立、常務理事・事務局長に就任。以来、様々な市民団体のNPO法人化の相談に応じたり、NPOと企業や労働組合などとの協働事業をコーディネート。内閣府の社会的責任円卓会議に運営委員として参画する中で、2011年に全国初の試みとして地域円卓会議を実施。



2.3 まちづくり円卓会議の様相

第1回まちづくり円卓会議



第2回まちづくり円卓会議



第3回 まちづくり円卓会議



2.4 議論の記録

2013年7月29日(月)まちづくり円卓会議 ～障がいのある人もない人も分けない居場所づくり～
 ポストイトに書かれた意見

	まず取り組みそうなこと	できそうな火種、チャンス	どのようなメリットを関係者にもたらすか	ネックになりそうなこと
人	縁側プロジェクト 参加団体との連絡会	シンポジウムでみんなに参加してもらおうと思っている	障がいのある人の集える場が増える	受け入れ不安をどうするか
	「居酒屋へ行く会」を作る	勤労層でも可能。 夜、一緒に居酒屋で、ひとときを。		
	職員や STAFF さん同士の交流会	まずは顔がみえる人同士メールする？		
	定例になりつつある円卓会議への参加	前もっての早めの日程をいただくことによってスケジュールを押しえられる。		
	今年の居場所づくり講座受講者とのつながりづくり	講座が9月で終了なので、そこまでに何かきっかけを	歩いていける所 身近にいける安心感	数を増やすことが先か、 足を確保することが先か
情報	商店街や大型店の中でも特定のところに安心して買物や食事の行ける場所を確保	地域での受け入れ理解		
	ほっとネット推進員に理解や協力をもとめる			
	活動組織の紹介	社協 市報 掲示板		
	9月22日のだがしや楽校に参加してね	アミーゴに申し込もう	作業を共通の何かと共に する一体感を感じる	

	11/17 市全体に向けてシンポジウムのことを開催する	円卓会議のメンバーの方々に活動紹介をしてもらいたい！！	たくさんの人が関心をもつ	社協につながるとも限らないので出口がたくさんあった方が・・・
	情報交換 ネットワーク化	マップづくり 小冊子づくり (リーフ)	各団体 紹介がスムーズ 自分の居場所をみつける手段	予算
人材	65歳～ 70歳～ サポーター育成	車と一緒に乗る	高齢の方の自己実現	ないかも・・・
	福祉教育のあり方			
企画	年1回のバリアフリー的イベントを開催	そこから関係性をつくり、小グループ化した集合体を結成		
	勉強会、シンポジウムへの講師派遣 (対企業)+小商店+警察 ※イメージ作り、販促		当事者：やりがい 参加者：知識、見識 事業者・企業：イメージ、販促	なし
	児童センターにてイベントをする (交流的)	アミーゴに申し込もう	作業を共通の何か共にする一体感を感じる	
	休耕地を借りて、共同農作業		作る楽しみ つながり 環境保全 子ども } 食育 健康 }	法律 農協
	各季節イベントの共同開催		・やりがい、生きがい ・つながり	なし
	小地域ごとの共同ボランティア活動 (ゴミひろい、花)		・やりがい、生きがい ・つながり	・なし

公的施設を借りるた まり場	公共施設の空いている 状況は？		
フレンドリーで集う	退職後のシニア層にス タッフの働きかけ		
障害者は65歳未満 でも介護保険の対象 に		適切なサービスが受けら れる	行政の問題 条例化
在宅障害者（日中活動 をしていない）の掘り 起し	緊急一時利用者	充実した生活 家族も含めて 社会とのつながりができ る	家族、本人への説得 居場所までのあし

※実現可能性が高いコト（縦軸）／早期に取り組みたいコト（横軸）

テーマ外で出された意見

・小樽のかもめ保育園の事例	<ul style="list-style-type: none"> ・「避難訓練」は有効 ・顔合わせができる ・参加呼びかけをしやすい ・交流がもてる
・社会人が学校にくることのメリット	

第3回 (ファシリテーショングラフィック)



2.5 参観者のアンケート結果

- ・テーマ設定、話し合いについては適切で有意義との声が多かった。
 - ・まちづくり円卓会議を公開で実施したことについても意義があるという声が多かった。
 - ・円卓会議という手法で地域課題の解決に役立てたいという声は少なかった。
- (抜粋)
- ・とても良いヒントを沢山頂けた。
 - ・傍聴は、意義がある。多くの人に多くの人の活動を知ってもらえて手をたづさえていける。
 - ・市民として地域社会に貢献できるかもしれない。
 - ・いろいろ考えるきっかけになった。
 - ・本日の内容は何らかの機会に西東京市（行政）に伝えてほしい。
 - ・とても頼もしい存在にかんじた。これからも大切な人と人とのつながりの場をつくって平和で住みやすい西東京にしていけますように。

2.6 まちづくり円卓会議の課題

- ・ゴールの設定（啓蒙・普及か事業化か）が曖昧だった。
- ・「まちづくり円卓会議」の手法を地域に広めるまでには至らなかった。
- ・「畑で場づくりという具体的居場所づくり」の主導者が明確にならなかった。
- ・テーマ設定と解決への対話が不十分だった。（回数不足）
- ・参観者など会議メンバー以外への広がりを作ることができなかった。
- ・行政の担当者に参加してもらえなかった。
- ・ステークホルダーを広げられなかった。

参考資料

第1回 まちづくり円卓会議 配布資料

まちづくり円卓会議 「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」

日時：2013年7月29日（月）13:30～15:30

場所：イングビル3階 第2会議室

円卓会議メンバー：岩崎 智之（おとなりさん。小金井公園）
[敬称略] 小松 真弓（NPO 法人子どもアミーゴ西東京）
紺野 美子（NPO 法人移動サポートひらけごま）
鈴木 みどり（かたらいの場 “チャオ”）
田辺 広子（NPO 法人ハンディキャップサポートウーノの会）
利光 有紀（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会 ほっとネットステーション）
名倉 直子（社会福祉法人悠遊 泉町地域包括支援センター）
星野 美津子（田無公民館 あめんぼ青年教室）
円卓会議ファシリテーター：板垣 洋子（西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ）
事務局：内田 雅俊（西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ）
丸木 敦（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会）
塚澤 貞明（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会）

【配布資料】

資料1：今年度のまちづくり円卓会議の進め方

資料2：平成24年度まちづくり円卓会議（第1、2回）及び平成25年度スタッフ情報交換会の概要

資料3：平成25年度 第1回まちづくり円卓会議について

資料4：団体紹介と「居場所づくり」について

本日のスケジュール

- 13:30～ 今年度のまちづくり円卓会議の進め方（資料1）
これまでのまちづくり円卓会議の概要と本日の進め方について（資料2）
- 14:10～ 自己紹介
- 14:30～ 平成25年度第1回まちづくり円卓会議について（資料3）
意見交換
「まず取り組めそうなこと」
「できそうな火種、チャンスはありますか」
「どのようなメリットを関係者にもたらすか」
「その取組を検討する際にネックになりそうなことは何か」
※「どの取り組みについて話し合いを深めていくか」
- 15:20～ ふりかえり
- 15:30 今後の予定（確認）
11月21日（木）：防災センター6F 講座室1、2
傍聴者にも公開し、横田氏ファシリテーターのもと開催。
（7月29日の議論+αを公開するイメージ）

<p style="text-align: right;">資料1</p> <h2 style="text-align: center;">今年度のまちづくり円卓会議の進め方</h2> <p style="text-align: center;">～障がいのある人もない人も 分けない居場所づくり～</p> <p style="text-align: center;">平成25年7月29日</p>	<h2 style="text-align: center;">昨年度のまちづくり円卓会議</h2> <ul style="list-style-type: none"> ● ゆめこらぼの新規事業 ● 第1回 ～西東京市のまちづくりを考える～ 第一部 基調講演「地域円卓会議の可能性」 第二部 模擬円卓会議 「西東京のまちで居場所づくりを！！」 (ゆめこらぼのホームページで報告書を公開) ● 第2回 模擬円卓会議の参加メンバーによる 第1回の振り返りと継続に関する協議
<h2 style="text-align: center;">今年度のまちづくり円卓会議</h2> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度のまちづくり円卓会議を継続。テーマは「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」とする。 ● スタッフ情報交換会を準備会合として開催する。 まちづくり円卓会議の枠組みを話し合う場としての位置づけ。 第1回スタッフ情報交換会：6月6日実施 ● 今年度のまちづくり円卓会議の予定 第1回 7月：公開しない。テーマについて「取り組めそうなことは何か」「何がネックか」などを意見交換する。 第2回 11月：公開し、これまでの経緯と第1回の意見交換結果を傍聴者と共有する。また、傍聴者の意見を聴取する。 第3回 3月：第2回の結果を受け、「何に、どのように取り組むか」を公開の場で話し合う。 なお、第2回、第3回は横田氏にファシリテーターを依頼する。 	
<p style="text-align: right;">資料 2</p> <h2 style="text-align: center;">平成24年度まちづくり円卓会議(第1,2回) 及び 平成25年度スタッフ情報交換会の概要</h2> <p style="text-align: center;">平成25年7月29日</p>	<h2 style="text-align: center;">平成24年度 第1回まちづくり円卓会議の状況</h2> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域円卓会議を学ぶため、模擬円卓会議を公開(32名傍聴)で実施 テーマ:「居場所づくり」 ファシリテーター:横田能洋氏(NPO法人茨城NPOセンター・コムズ 常務理事。地域円卓会議の先駆者) (2) 話し合いの内容:立場を超えて、どのような連携が必要かアイデア出し ①各自(所属する団体)の強みと弱みについて ②この場に呼びたい人について ③人づくりについて ④「あったらいいなあ、こんな場所」について (3) 話し合いの結果 ・お互いの考えを知ることができた ・何らかの取り組みで協力できる可能性が見えた
<h2 style="text-align: center;">平成24年度 第2回まちづくり円卓会議の状況</h2> <ol style="list-style-type: none"> (1) まちづくり円卓会議の定着に向け、非公開で実施 第1回 まちづくり円卓会議の振り返りと継続に関する協議 (2) 話し合いの内容 ① 模擬円卓会議に参加した気付き ・情報の共有に円卓会議は有効であった ・「居場所づくり」の必要性を実感しているもの同士が繋がった ② まちづくり円卓会議の継続について ・居場所づくりの必要性について意見交換 (3) 話し合いの結果 ・「居場所づくり」をテーマにまちづくり円卓会議を続けていく ・メンバーを増やしていく 	<h2 style="text-align: center;">平成25年度 第1回スタッフ情報交換会の状況</h2> <ol style="list-style-type: none"> (1) スタッフ情報交換会の設置 今年度からまちづくり円卓会議の準備会合として設置 まちづくり円卓会議の枠組みを話し合う場として開催 (2) 話し合いの結果 ① まちづくり円卓会議のテーマ 「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」 ② まちづくり円卓会議のメンバー 昨年度まちづくり円卓会議メンバー NPO法人インディキップサポートウーノの会 田辺さん NPO法人移動サポートひらげごま 紺野さん 相談支援センターえほっく(可能なら) その他、会議を進める中で増員していく

平成25年度まちづくり円卓会議について

<テーマ>
障がいのある人もない人も
分けない居場所づくり

平成25年7月29日

本日の進行

- ①地域課題とその解決が進まない理由(事務局作成)の確認と共有から始める。
- ②今後取組めそうなこと、ネックになりそうなことをフリーディスカッションする。
- ③今後皆で取組めそうなことの方向性を出す



次回(11月)のまちづくり円卓会議では、この内容を再現、公開する

解決すべき地域課題

地域に安心して集える居場所がない
・傾聴・対話の場
・高齢者の居場所
・誰でも来れる居場所
・子育て中の親が孤立しない場
・子どもの居場所

障がい者の居場所は地域にない
・公民館主催の障がい者学級は、対象者が増え今後対応しきれなくなる

健常者が障がいのあるひとや弱者への対応のしかたがわからず地域に問題が増えている。

なぜ解決が進まないのか

- ・活動を展開するハード面の不足
- ・地域の居場所に障がい者は参加できない
- ・コーディネートできる人がいない
- ・情報のネットワークができていない
- ・公共施設が活用しきれていない
- ・市民の理解者が足りない
- ・孤立化する人の増加
- ・協働推進の硬直化

一言で言うとうどういう問題

お互いを理解するには、障がいのある人にもない人にも安心して過ごせる場所が身近なところに必要

このままいくとどうなる

- ・孤立化する人が増える
- ・お互いを理解し合う関係性が築けなくなる
- ・身近な地域での支え合いができなくなる
- ・様々な問題を市民で解決できず、課題が山積してしまふ

今日話し合うこと

まず取組めそうなこと

できそうな火種、チャンス

どのようなメリットを関係者にもたらすか

ネックになりそうなことは何か


今日のふりかえり

- ・それぞれ一言

今後の確認

- ・ 月 スタッフ情報交換会
- ・ 11月 まちづくり円卓会議(公開)
- ・ その他

<h2 style="text-align: center;">まちづくり円卓会議</h2> <h3 style="text-align: center;">～障がいのある人もない人も 分けない居場所づくり～</h3> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">平成25年11月21日</p>	<h3 style="text-align: center;">まちづくり円卓会議のご紹介</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度のゆめこらぼの新規事業として開始 ● 多様な立場の関係者で協議する場 ● 地域課題の共有化と解決のきっかけの場 ● 地縁組織と市民活動団体との連携を模索する場 <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度2回開催（平成25年2月、3月） ● 今年度1回開催（平成25年7月）
<h3 style="text-align: center;">平成24年度第1回まちづくり円卓会議</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成25年2月21日（木）14時～16時半開催 ● 初めてのことで、まちづくり円卓会議に造詣の深い講師をお招きし、基調講演（資料1）いただいた。 地域円卓会議：①地域課題の共有 ②アイデア出し ③仲間を増やす ④役割・目標の合意 ⑤継続する責任感の共有 ポイント：①組織・立場、既存の議論の枠を超えて議論 ②議論の中で化学反応が起こり、熱くなる人を生み出す ● 基調講演に引き続き「西東京のまちで居場所づくり！」をテーマにまちづくり円卓会議を実施した。市内の居場所の関係者が会議メンバー。講師にファシリテーターを依頼。傍聴者は32名。 会議メンバーの感想：試行的な意義は大きかった。市の総合計画に反映できるとよい。傍聴者も意見が出し易い環境必要。 初めは戸惑ったが、最後は盛り上がった。いかに市民を巻き込むか。ノウハウや人材育成が大事。 ● ゆめこらぼ通信第24号に記事を、ホームページに報告書を掲載。 	<h3 style="text-align: center;">平成24年度第2回まちづくり円卓会議</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成25年3月29日（金）14時～17時開催 ● 第1回の会議メンバーで第1回の会議について振り返り <振り返りの結果> <ul style="list-style-type: none"> ・情報交換ができてよかった ・「居場所づくり」の必要性を実感している同士が繋がれた ● 翌25年度のまちづくり円卓会議の継続可否とテーマについて意見交換 <意見交換の結果> <ul style="list-style-type: none"> ・このまま継続する ● 第2回の会議は非公開とした。 ● ゆめこらぼ通信第25号に記事を掲載。
<h3 style="text-align: center;">平成25年度のまちづくり円卓会議</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度を振り返り、平成25年度からはまちづくり円卓会議の準備会合として、スタッフ情報交換会を事前に開催することとした。 ● スタッフ情報交換会では、まちづくり円卓会議の枠組みを話し合うこととした。 ● 平成24年度第2回まちづくり円卓会議メンバーの合意が得られたため、「居場所づくり」をテーマに会議を継続することとした。 	<h3 style="text-align: center;">平成25年度スタッフ情報交換会</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 2回開催（4月15日、6月6日） ● 平成25年度のテーマ 「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」 ● 会議メンバー <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の会議メンバーは引き続き参加する ・必要に応じてメンバー追加を行う ・障がい者関係のメンバーに声掛けする
<h3 style="text-align: center;">平成25年度第1回まちづくり円卓会議</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成25年7月29日（金）13時半～15時半開催 ● 「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」をテーマに、 <ol style="list-style-type: none"> ①取組めそうなこと ②火種、チャンス ③取組みに対してネックとなること について意見交換した。 ● 様々な居場所づくりのアイデアが提案された。 ● 会議は非公開とした。 ● ゆめこらぼ通信第27号で記事を掲載。 	<h3 style="text-align: center;">平成25年度第2回まちづくり円卓会議 (本日の進め方とお願い)</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 14時開始 ● テーマ:「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」 ● ファシリテーター: 横田能洋氏 (NPO法人茨城NPOセンターコモンズ常務理事) 2011年に全国初の地域円卓会議を実施 ● 会議メンバー: 資料2 ● 15時半: 振り返り(会議メンバー、傍聴者から) ● 16時20分: 閉会のあいさつ、アンケートのご記入 ● 16時半: 終了 ● 会議メンバーは所属する団体・組織を超えて自由に発言していただけますので、責任を及ぼすようなことはご遠慮ください。 ● 発言は、ファシリテーターの求めに従って行ってください。 次回のまちづくり円卓会議は来年3月を予定しています。 <div style="text-align: right;">  </div>

<p style="text-align: center;">「地域円卓会議の可能性」</p> <p style="text-align: center;">茨城NPOセンター・コモンズ 横田能洋 http://www.npocommons.org</p>	<p style="text-align: center;">「SR: 社会的責任」で問われていること</p> <p style="text-align: center;">法令順守だけでは、社会の持続性が危うい</p> <p>「私・わが組織には関係ない」と決めつけないこと 事業体は、社会面・環境面の配慮を業務に統合すること 利益を還元すること < どのように利益をあげるか</p> <p>SRとは 社会を学ぶこと、社会への洞察力が重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法や制度面での義務はないが、ステークホルダーと自組織の間で起きている社会課題について、このままではいかを考え、判断し、実行するプロセス。 ・ その判断に際してステークホルダーと対話したり、協働することが重要になる
<p style="text-align: center;">社会的責任に関する円卓会議</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>安全・安心で持続可能な未来に向け、事業者団体、労働組合、NPO・NGOなどの広範な主体が参画し、政府だけでは解決の難しい課題を話し、参加主体が自ら行動することで解決していく仕組み。平成21年3月、政府、事業者団体、労働組合、NPO等、消費者団体、学者等の発起人の署名により設立し、政府はメンバーの一員として参画</p> </div> 	<p style="text-align: center;">地域円卓会議開催までの経過</p> <p>22年9月 SR円卓会議で、22年度モデル事業として地域版円卓会議の実施が決まり、茨城が開催候補地に選ばれた。</p> <p>選ばれた理由 各セクターの協働でNPOフォーラムを10年以上開催し、その中から「地域のパートナーシップを拓くSRネット茨城」ができていた。</p> <p>そこで、毎年開催してきたNPOフォーラムは、22年度は地域円卓会議in茨城として開催することになり、SRネット茨城が円卓会議の実行委員会になった。</p>
<p style="text-align: center;">地域のパートナーシップを拓くSRネット茨城の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業・労組・経済団体・NPOの関係者が集い ・ 組織の社会的責任や地域貢献に関する情報を交換できる場を設け ・ それぞれの活動のレベルアップを図り ・ 地域の課題解決に向けた相互の連携と活動の発展を促し、 ・ 組織や地域の価値を高める。 	<p style="text-align: center;">SRネット茨城の活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPOフォーラム共同開催(2000年から) ・ フォーラム実委メンバーでSRネット設立(2009年) ・ ISO26000学習会 (2010年～) ・ 地域課題の検討 「耕作放棄地問題」「外国人児童教育問題」 ・ 茨城でのフードバンク設立(2010年9月～) ・ 地域円卓会議の企画運営(2011年2月18日～) ・ 東日本大震災でのホープ常磐プロジェクト
<p style="text-align: center;">円卓会議のゴールのパターン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の存在と、それぞれの立場、活動を知る。 ・ 課題への各立場の考えをきき、課題への理解を深め、課題を共有する。 ・ 課題解決のためになる活動のアイデアを出す ・ 課題に関わる新たな仲間を増やす ・ 各主体の具体的な役割、目標を合意する ・ 事業の持続についての責任感を共有する 	<p style="text-align: center;">地域での円卓的協働の仕掛け方</p> <p>立ち上げ方は2パターン</p> <p>パターン1 事業テーマ(地域課題)があり、それに かかわりそうなキーパーソンに集まってもらう (現状共有はしやすいが、協働につなげるには新たな事業の企画力がある)</p> <p>パターン2 多様なメンバーに集まってもらい、そのメンバーで協働できる事業を考え、組み立てる</p> <p>(関心が重なるテーマを選び、各組織の特性が生きていない事業を作りこみ、さらにメンバーを仲間にし、本気にさせる仕掛け人(グループ)がいる)</p>

議論の枠組みづくりのプロセス

※議論の枠組みづくりでは、セクター代表による合意という円卓の理想形と、現実のギャップが大きな焦点

形式や実効性を重視

組織の意見を公に示し、組織間合意したほうが実行性は高まる。しかし、意思決定に膨大な時間と手間がかかるほか、総論賛成でも各論は慎重になりやすい

自由な発想を重視

自由な発想から新たな協働アイデアが生まれる可能性がある

しかし、個人的コメントでとどまると組織的実践になりにくい。

今回は、自由な議論で企画の魅力を高め徐々に組織を巻き込む戦略でいくことに

議論の枠組みづくりのプロセス

協議テーマについて協議し3つに決定

- ・生協が提案した「農業の支援と新たな仕事づくり」
- ・NPOが提案した「新しい公共を広げるための地域資源循環」
- ・商工会議所が議論してきた「買い物支援や外出支援」

それぞれに関係しそうな組織や活動事例のリストアップを行い、実行委員会が推薦した人や組織に協議者就任を依頼

議論のストーリーや落としどころをどうするか…

「議論がどこにいくな不安だが、様々な立場、実践が融合する中で想定外の化学反応が生まれるプロセスが円卓の醍醐味！」

との意見に実行委員会が賛同。プレ会議を2回行って、議論の下地をつくることに。

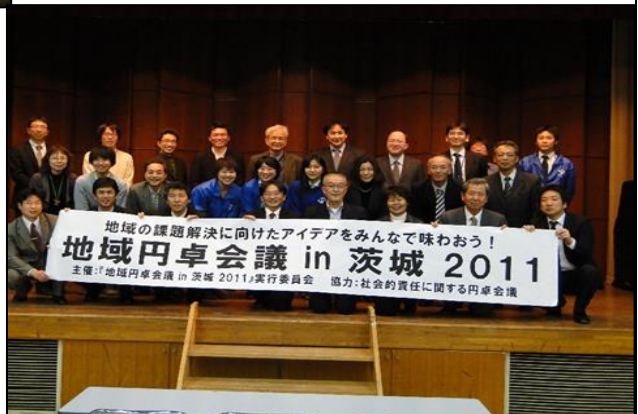


円卓会議の効果

- ・1社ではできないことについて共同歩調をとるためのルールをつくる
- ・人の動きを変える(市場をつくる)きっかけをつくるための協力する。
- ・新たなサービス・事業のための仕組みをつくる
- ・事業の壁(制度・財源など)を乗り越えるため知恵、力を集める
- ・バラバラな活動では広報や効果が弱いときに、相乗効果をねらって共同キャンペーンを行う

もうひとつのねらい

- ・既存の議論の枠を超えて議論をし、熱くなる人を生み出す。それぞれが当事者になる。自発的に、皆で話し合ったことを具体化させるべく動き、産みの苦しみと達成感を共に味わうことで、困ったときに相談ができる関係性(仲間)をつくる。



震災支援時のコラボレーション

- ・北茨城といわきのNPO 現地情報の提供 支援先との調整
- ・労働者福祉基金協会 活動拠点の提供
- ・パルシステム茨城 物資倉庫の提供
- ・茨城県生協連合会 炊き出し
- ・つくば市民大学 物資収集時の拠点
- ・経営者協会・連合茨城 支援物資の呼びかけ
- ・茨城新聞・茨城放送 支援活動の紹介
- ・社会福祉協議会 バス貸与 広報協力
- ・バス会社 ボランティアバス運行

討議によって市民社会を広げよう

	参加	関係	可変性	創造性
市民社会 COMMONS 貢献活動 ファンプレー	・自らを開き、力を持ち寄る ・自らの利害を越えられる	・仲間関係 ・お互いさま ・対等な関係	・自発的な活動 ・役割は変わる ・不安定	様々な人が自由な対話で新しいアイデアを生み出せる。
組織社会 本業活動 やっていたり前	・組織を守る、閉じた関係 ・組織の利害や責任を重視	・契約関係 ・取引関係 ・上下関係 ・競争関係	・自由は制限 ・役割は固定的 ・安定性は高い	メンバーが固定化しやすく新しいアイデアが出にくい。
国 義務活動 必ず行う	・国益を重視	権利と義務の関係	法に従わなければならない	決定権を持つ人が決まっている

<h3 style="text-align: center;">地域のNPOの4つの課題</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>円卓会議 協働促進</p> <p>↓</p> <p>地域課題を解決している というインパクトが弱い</p> <p>↓</p> <p>情報開示 会計支援</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>組織支援 人材育成</p> <p>↑</p> <p>制度外の人的サービス を担うNPOが増えない</p> <p>↑</p> <p>寄付仲介</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>支援財源が乏しく 自主事業が広がりにくい</p> <p>↓</p> <p>県民にNPOが知られず 参加・支援が乏しい</p> </div>	<p>バスが利用しづらく 街歩きがしにくい街は ますます人が寄り付かない街になる</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;"> <p>行政 公共交通の利用 促進や地域のバリア フリー化を進めたい</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>特別支援学校 生徒の作品の展示・販売 の拠点を街中におきたい</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;"> <p>バス会社 移動困難者に低床バ スを利用してほしい</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>祭りの際に、 外出の機会を つくろう</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>高校生 何かボランティアしたい</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;"> <p>大学 バリアフリーの研究 で協力したい</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>商工会議所 バリアフリーマップを 集客につなげたい</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>飲食店 改装したトイレを利 用してもらいたい</p> </div> </div>
<h3 style="text-align: center;">タウンモビリティ</h3> 	<h3 style="text-align: center;">困ったことこそ 対話の機会</h3> <ul style="list-style-type: none"> • 市や地域が困っていることこそ、真剣に考え知恵もでる • 一方的に要求したり、一方的に結論を出すのではなく、問題を素材にして共に話す (〇〇禁止、〇〇は閉鎖 と決める前に) • お客様扱いから 問題解決の当事者へ • クレーマーからパートナーへ
<h3 style="text-align: center;">対話＋相手を知る＋共に実験</h3> <p style="text-align: center;">何らかの市民からの問い合わせ・提案</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; background-color: #e0e0e0;"> <p>前例がない うちが対応すべきこと？ 対応すると仕事が増える 判断したら責任問われる</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; background-color: #e0e0e0;"> <p>ユニークな人がいるものだ 市民のためになる提案か この人は自らも動くか 上司や他課も協力してくれそうか</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p>それはできない、とだけ伝える</p> <p>市民はあきらめ無関心になる</p> <p>変化は起こらず、担い手も育たない</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>どうしたらできるか、共に考えましょう、と伝え、チャンスをつくる</p> <p>市民は本気になって企画、実践</p> <p>担い手、パートナーが増える</p> </div> </div>	<h3 style="text-align: center;">協働に至るステップ</h3> <ul style="list-style-type: none"> • 課題の関係者が互いの考えや取組みを知る <li style="text-align: center;">↓ • その課題の当事者であることの確認 <li style="text-align: center;">↓ • 共にテーブルについて協議することの確認 <li style="text-align: center;">↓ • 何らかの取組みで協力することの確認 <li style="text-align: center;">↓ • 具体的に何をし、同役割分担するか決める
<h3 style="text-align: center;">協働に至るまでの壁</h3> <ul style="list-style-type: none"> • 課題の関係者が互いの考えや取組みを知る (関心をもってもらえず場にこない) • その課題の当事者であることの確認 (他がやることと捉え自らは動こうとしない) • 共にテーブルについて協議することの確認 (ゴール、位置づけに納得せず席につかない) • 何らかの取組みで協力することの確認 (自組織内部で方針がつかれないので保留) • 具体的に何をし、同役割分担するか決める (人や労力など負担できない) 	<h3 style="text-align: center;">壁の乗り越え方 その1</h3> <p style="text-align: center;">(関心をもってもらえず場にこない)</p> <p>テーマが、相手の活動に関わることを説明 メンバーで関心をひく(こういう人にあえる) 今、集まることの重要性、メリットを説明 課題を感じていそうな人、話ができる人を探す (他がやることと捉え、動こうとしない)</p> <p>他地域での同じような組織の関与事例を示す 他もやるが、あなたも当事者とねばり、 その人が動きやすくするための理由、材料を用意</p>

壁の乗り越え方その2

(ゴールや会の位置づけに納得せず席につかない)

- ・他に似た動きがあると敬遠されるので、違いを示す。
- ・ゴールが不明確だといわれたら、できるだけ見通しを示す。
- ・縛られたくない様子なら、合意の仕方や範囲、役割を示す。
- ・他のメンバーを前向きにさせることで、外堀を埋める。

(自組織内部で方針がつかれないので態度保留)

- ・何がネックで動けないかをきき、共に突破口を探す
- ・実績をつくってみせて、参加しやすい状況をつくる
- ・行政は、基本計画に盛り込まれるよう働きかける
- ・決められる立場の人に直談判
- ・上部組織や議会の力を借りて後押ししてもらう

コーディネーターとしての心得

- ・キーパーソンとの出会いを大事にする。
- ・何か試みてる相談者の役に立ち、つながっておく
- ・メンバーのいい組み合わせをつくり、まきこむ
- ・閃いたら、成功体験を味わえそうな事業をデザイン
- ・メンバー同士の交流を促す
- ・協力者を誘い込み、輪を広げる
- ・不安や壁を乗り越えることは、仲間としての一体感を増すチャンス(ここが頑張りどころ)
- ・メンバーのアイデアをできるだけ活かす。
- ・火を消さないよう次の展開を考え場をつくる。

<h2 style="text-align: center;">まちづくり円卓会議</h2> <h3 style="text-align: center;">～障がいのある人もない人も 分けない居場所づくり～</h3> <p style="text-align: center;">平成26年3月10日</p>	<h3 style="text-align: center;">本日の進め方</h3> <p>13:30～経緯の説明（本資料①を使用します） 14:00～まちづくり円卓会議（資料②、③を参照下さい） 14:50～休憩 15:05～まちづくり円卓会議 15:55～本日の円卓会議の振り返り 16:20～閉会の挨拶・アンケート記入</p> <p>資料：①まちづくり円卓会議（本資料） ②会議メンバー紹介 ③「地域円卓会議」のススメ ④「地域円卓会議の可能性」 ⑤アンケート（まかにチラシ、冊子「協働の扉」 （会場は17時に閉めます）</p>
<h3 style="text-align: center;">まちづくり円卓会議のご紹介</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度のゆめこらぼの新規事業として開始 ● 多様な立場の関係者で協議する場 ● 地域課題の共有化と解決のきっかけの場 ● 地縁組織と市民活動団体との連携を模索する場 <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度2回開催（平成25年2月、3月） ● 今年度2回開催（平成25年7月、11月） ● 本日は、今年度3回目 	<h3 style="text-align: center;">平成24年度第1回まちづくり円卓会議</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成25年2月21日（木）14時～16時半開催 ● 初めてのことで、まちづくり円卓会議に造詣の深い講師をお招きし、基調講演（資料④）いただいた。 地域円卓会議：(1)地域課題の共有 (2)アイデア出し (3)仲間を増やす (4)役割・目標の合意 (5)継続する責任感の共有 ポイント：(1)組織・立場、既存の議論の枠を超えて議論 (2)議論の中で化学反応が起こり、熱くなる人を生み出す ● 基調講演に引き続き「西東京のまちで居場所づくり！」をテーマにまちづくり円卓会議を実施した。市内の居場所の関係者が会議メンバー。講師にファシリテーターを依頼。傍聴者は32名。 会議メンバーの感想：試行的な意義は大きかった。市の総合計画に反映できるとよい。傍聴者も意見が出し易い環境必要。初めは戸惑ったが、最後は盛り上がった。いかに市民を巻き込むか。ノウハウや人材育成が大事。 ● ゆめこらぼ通信第24号に記事を、ホームページに報告書を掲載。
<h3 style="text-align: center;">平成24年度第2回まちづくり円卓会議</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成25年3月29日（金）14時～17時開催 ● 第1回の会議メンバーで第1回の会議について振り返り <振り返りの結果> <ul style="list-style-type: none"> ・情報交換ができてよかった ・「居場所づくり」の必要性を実感している同士が繋がれた ● 翌25年度のまちづくり円卓会議の継続可否とテーマについて意見交換 <意見交換の結果> <ul style="list-style-type: none"> ・このまま継続する ● 第2回の会議は非公開とした。 ● ゆめこらぼ通信第25号に記事を掲載。 	<h3 style="text-align: center;">平成25年度のまちづくり円卓会議</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度を振り返り、平成25年度からはまちづくり円卓会議の準備会合として、スタッフ情報交換会を事前に開催することとした。 ● スタッフ情報交換会では、まちづくり円卓会議の枠組みを話し合うこととした。 ● 平成24年度第2回まちづくり円卓会議メンバーの合意が得られたため、「居場所づくり」をテーマに会議を継続することとした。

障害のある人もない人も分けない 居場所づくり

経過説明

きっかけ
公民館主催の障がい者学級は、対象者
が増え今後対応しきれなくなる。

- 地域に安心して集える居場所はあるのか！？
 - ・高齢者の居場所
 - ・子どもの居場所
 - ・子育て中の親の居場所
 - ・誰でも来れる居場所
 - ・傾聴・対話の場

⇒障がいのある人もない人にとっても安心して過ごせる場所が身近なところに必要

平成25年度第1回まちづくり円卓会議

- 平成25年7月29日（金）13時半～15時半開催（非公開）
 - 会議メンバー 8人
 - 「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」をテーマに、
 - ①取組めそうなこと
 - ②火種、チャンス
 - ③取組みに対してネックとなることについて意見交換した。
- 多くのアイデア（次ページ）が出されたが、絞り切れず
- ゆめこらぼ通信第27号で記事を掲載。

第1回での話し合いの結果

- 「取り組めそうなこと」で出たアイデア
 - 居酒屋へ行く会をつくる
 - 職員やSTAFFさん同士の交流会
 - 情報交換・ネットワーク化
 - バリアフリー的なイベントの開催
 - 休耕地を借りて共同農作業
 - 小地域ごとの共同ボランティア活動
 - だがりや楽校に参加
 - シンポジウムの開催

平成25年度第2回まちづくり円卓会議

- 平成25年11月21日（木）14時～16時半（公開）
 - ファシリテーター：茨城NPOセンター・ commonsの横田能洋氏
 - 「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」について
どのような場なのかについての話し合い
 - ・ 来ている人が主役になれることは？
 - ・ 行きたくてもいけない場所にどうやったら行ける？
 - ・ どのようなことが必要か？
 - ・ 今後やりたいことについて
- 「つくりたい居場所」のイメージをより形にしていけるためのアイデア出しを行い、大切な要素が明確になってきた。
- 当事者、関係者など立場の違う参観者28人とともに協議を共有

第2回での話し合いの結果（1）

- 来ている人が主役になれることは？
 - ・ ごしゃごしゃした参加
 - ・ 顔なじみになる
 - ・ 仕事
 - ・ 農作業の手伝い
 - ・ 同じことをする一体感
 - ・ 地域のためになる活動から関係性を築く
- 行きたくても行けない場所にどうやったら行ける？
 - ・ 関係性ができることでの可能性
 - ・ 制度のぬけ道を探す
 - ・ 制度外の人を巻き込む工夫

第2回での話し合いの結果（2）

今後やりたいことは

- ・ 農地保全協議会の活動を広げたい。
 - ・ 活動しているひと、知り合ったひとと繋がる
 - ・ イベントでの出会いから繋がり、知り合うことの回数をこなしたい
 - ・ 一緒にやろうと顔をあわせて言える場づくり
 - ・ 体験のない人が体験する企画を続けたい
 - ・ 市民と行き場のない人のニーズをつなぎたい
 - ・ グループホームを地域に開放したい
 - ・ 縁側プロジェクトに参加したい
 - ・ 障がいを理解する講座
- これからも集ってみよう！
 - 場を作って、人が来なくてもやめない、続けること。

お願い

- タイムスケジュールは、協議の展開によって臨機応変に進めていきます。ご理解をお願いいたします。
- 筋書きの無い話し合いです。会議メンバーが安心して自由に発言できるようあなたかく見守ってください。
- 参観者は、ファシリテーターの求めに応じて発言してください。

まちづくり円卓会議 メンバー紹介（敬称略）

<ファシリテーター>

横田 能洋

認定 NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ常務理事

<http://www.npocommons.org/>

1996年に茨城 NPO 研究会を発足させ、1998年11月に茨城 NPO センター・コモンズを設立、常務理事・事務局長に就任。以来、様々な市民団体の NPO 法人化の相談に応じたり、NPO と企業や労働組合などとの協働事業をコーディネート。内閣府の社会的責任円卓会議に運営委員として参画。2011年に全国初の試みとして地域円卓会議を実施。

<会議メンバー>

岩崎 智之

おとなりさん。小金井公 <http://ameblo.jp/otonari30>

介護事業所の枠を超え、開かれた「おとなりさん。」を目指し、地域のお役に立ちたいと考えております。「ちょっと、おとなりさん。家に行って来るね！」という感覚で、ゆったりと落ち着ける心地よい「居場所」として、皆様をお待ちしております。

小松 真弓

NPO 法人子どもアミーゴ西東京 <http://kodomonanigo.org/>

学童クラブに子どもを連れていたお父さん、お母さんが集まって作った団体です。2007年4月～放課後の子どもの居場所として学童クラブを運営。2011年4月からは、児童センターを運営しているので、0歳から18歳未満の子どもや子育てをしている大人たちの居場所にもなっています。また、私たち団体の理事や関わってくれる大人たちは、「楽しいよね」「気持ちがいいよね」を共感し「子どもと汗を一緒にかく」が、出来る大人集団です。

紺野 美子

NPO 法人移動サポートひらけごま

<http://members3.jcom.home.ne.jp/hirake/>

何らかの理由で移動が困難になった方に福祉車両で移動をサポートしています。閉じこもりがちの方を対象にしたお出かけ企画も実施しました。西東京市ハンディキャプけやき号を受託し移動相談を行っています。高齢者が居場所に行くのをあきらめてしまわないですむ方法を模索中です。

鈴木 みどり

かたらいの場“チャオ!”

2012年7～9月にかけて5回にわたり西東京市ほっとネットステーション主催の「地域の居場所づくり講座」受講の卒業生有志により誕生しました。だれもが自由に過ごせる場所としてたくさんの人に知っていただけるよう、手づくりのチラシ作成をし、チラシ配布をしたり、市の掲示板を利用しています。

田辺 広子

NPO 法人ハンディキャップサポートウーノの会

<http://www.uuno.org/>

知的に障がいのある子どもを持つ親の有志が、障害のある子どもが住み慣れたところでずっと安心して暮らしていけることを目標に立ち上げた会です。主な事業は居宅介護事業のヘルパーステーション、就労継続支援事業のワークステーション、共同生活事業のアットホーム、市から委託されている障害者スポーツ支援事業です。障害者も高齢化が進む状況で、今後はまだ制度化されていない大人の障がい者のためのデイサービス事業を展開したいと考えています。

利光 有紀

社会福祉法人 西東京市社会福祉協議会〈ほっとネットステーション〉

<http://www.n-csw.or.jp/>

住民からのお困りごと（福祉や年代にとらわれず、どんな問題でも断らない）を受け付け、住民と共に解決に結び付けることが仕事です。相談を受け、問題を解決するのが地域福祉コーディネーターで、西東京市を四つの圏域に分けて、一名ずつ配置されています。西東京市地域福祉計画により実施されている事業で、社会福祉協議会が受託し、運営しています。社協独自の事業ふれあいのまちづくり（市内に20か所の小地域活動）と連携しながら、地域づくりに取り組んでいます。

名倉 直子

社会福祉法人 悠遊 泉町地域包括支援センター

<http://www.you-you123.com/>

「一人ひとりが人間としての尊厳を保ち、その人が自分らしく暮らすことができるように、支援する」という理念のもとに事業運営しています。デイサービス、訪問サービス（ヘルパー派遣）、支援サービス（ケアマネジャー）、グループホーム、認知症対応型デイサービスを運営し、泉町地域包括支援センターを市から受託しています。「地域のネットワークづくり」に力を入れています。法人内にある地域密着型事業（グループホーム、認知症対応型デイ）と協力し、また、地域の方々の力をお借りして、地域の居場所づくり、出張相談、認知症サポーター養成講座、ささえあい協力員・協力団体の拡充などを行っています。

星野美津子

田無公民館 あめんぼ青年教室

知的に障がいのある人を対象にした公民館の主催講座です。創作、音楽、料理、スポーツ、館外活動を通して、自主性、社会性の育成を行っています。学級生もボランティアスタッフも共に楽しむことをモットーにしており、活動中は笑い声が絶えません。学級生が主体的に活動していて、活動内容を自分たちで考え、準備をし、運営しています。公民館で活動することで地域と繋がり、社会を構成する一員としての自覚を持つことを目指しています。

まちづくり円卓会議に参加して・・・感想・気づき

「子どもを真ん中においた、安全安心なまちづくり」を掲げてNPO法人として活動して8年。「まちづくり」と聞いたら血が騒ぎます。でも「円卓会議」とは一体何なんだ？が私のスタート位置でした。西東京市という「まち」で今起きている問題の解決に向けて、それぞれの立場の人が「私ならこれが出来る」という建設的な参画発言で、解決に向けての可能性がたくさん生まれる会議だと実感した1年間でした。小松 まゆみ

障がい者がテーマとなる時は、どうしても力んでしまうのですが、この会議では、私の大好きな言葉、「みんな違ってみんないい」はあたりまえ、ストンと力を抜いた状態で参加できました。円卓会議というものがよくわからないまま、参加させていただきましたが、異業種の方が其々の視点で、様々なアイデアを出し集約していくと、こんなにも可能性が広がるものなんですね。田辺 広子

『居場所づくり』に白紙の状態から参加できることは滅多にあるものじゃない！そんな軽～い気持ちで参加しました。初対面の方が多く、所属団体の活動内容、これまでの討議内容などすべてにおいて戸惑っているところです。ここは一緒に何かを決めるところ？考えるところ？企画するのかなあ？実行するところ？と、いろいろ想像して何かを見つけたら、やれることをやるところ、のような気がしてきました。紺野 美子

「円卓会議ってどんなことをするの？」という疑問を抱いて、初回参加したことを覚えています。回を重ね、その疑問も徐々に消えていきました。異業種の方々が集まり、意見を交わすことで「一緒に何かを！」というひらめきや可能性が生まれる。今後円卓会議が、気軽にあちこちで開かれるようになれば、新しい形のまちづくりが進むのではないかと感じております。1年間ありがとうございました。利光 有紀



「円卓会議に声がかかり私が何故メンバーに？と思いつつも参加していく中、色々な分野の方々と話し合いが進められ、まさにその瞬間にすることができ、熱い思いの方々と繋がりが持てて、そこでまた考える事ができました。ひとつに終結していくことの難しさ、だからこそ、そこで産みだされる会話が攪拌されて完成形を迎えることの楽しさをふんわかでも実感できた気がいたします。企画の方々に感謝申し上げます。鈴木 みどり

円卓会議とは何か、何を目指し何を発言するのか、最初は全く見えないまま参加致しました。しかし、地域で活動されている方と話し合うことで、自分の知らない課題を知ることができ、また、私を感じる課題を伝えることができ、参加者で何か行動ができそうな状態になりました。地域の方々と話し合う重要性、必要性を、円卓会議で教えて頂けたことが、一番の収穫です。岩崎 智之

公民館の障害者学級を担当している立場から、障がいを持つ人の居場所作りについて皆さんと考えることができました。私は最初「居場所＝スペースを作る」という考え方をしていたのですが、皆さんと一緒に考えていく中で、「商店街のお店の人と障がいのある人の関係性を作り、障がいのある人が安心して買い物できるシステムを作る」ことも居場所づくりになるのでは、という話がありました。そのような考えは自分にはない発想だったので、とても新鮮に感じました。この話し合いの延長線上で、形になるものができるかどうかは未知ですが、この席に集まったメンバーからはとてもいい刺激と発想をいただきました。今後の自分の活動に活かしていければと思います。星野 美津子

普段あまり会う機会のない方々と知り合えてとても楽しかったです。様々な立場の人が集まって何かテーマを持って話をすると、連帯意識のようなものが芽生えますね。そして自分のできること、力を貸して欲しいことをざっくばらんに伝えると、何かしら知恵とエネルギーがわいてきます。また、それぞれの持っているネットワークがつながって、さらに大きなつながりとなって、またその先で何かやれることがあったりします。そういう連鎖反応が円卓会議の意味だったような気がします。名倉 直子